



3. 防疫管理 (Q&A)

Q3-1. これから養蚕を始める場合、どのような飼育施設であれば蚕病防除に役立ちますか？

蚕病防除の上では、「消毒」・「洗浄」・「乾燥」・「隔離」を意識したが施設構造が理想的です。消毒作業では、アルカリ系の消毒剤を使用する機会が多いため、施設内の塗装はアルカリ耐性の塗料を選び、洗浄作業が容易に行えるように、排水設備を組み込むことも必要です。また、廃液が河川や水田に直接流入しないように下水を通したり、施設内を乾燥するために通気性を良くしたりすることも必要です。更に、飼育施設の隔離化という点では、「稚蚕室」、「中蚕室」、「壮蚕室」、「上簇室」、「貯桑場」というように飼育段階や作業工程に応じて部屋を分けておくと、万一病気が発生した場合にも対策が取りやすくなります。新規に養蚕を始める場合には、万一の蚕病発生に備えることを念頭に置き、飼育施設を用意してください。

Q3-2. カイコを飼う前の飼育準備で注意する点があれば教えてください

飼育を始める前に、飼育施設と消毒可能な蚕具類はしっかり消毒し、飼育施設(蚕室・貯桑場・上簇室など)は念入りに洗浄することが大切です。また、飼育中に、回転簇(完全消毒が困難な蚕具の一種)の組立作業などを掛け持ちして行くと、簇に付着している病原体(膿病のウイルスなど)がカイコに感染する原因となるため、飼育が始まる前に簇の組立を済ませておき、上簇するまでは上簇室に入らないように注意することも必要です。

Q3-3. 桑園に、飼育後の残沙(糞など)を直接入れてはいけない理由はなぜですか？

カイコに感染するウイルスのうち、細胞質多角体病ウイルス(CPV)や伝染性軟化病ウイルス(IFV)は、幼虫の中腸細胞に特異的に感染するため、増殖したウイルスがカイコの糞とともに排泄されます。このため、残沙を十分に堆肥化せず、直接桑園に入れてしまうと、桑の葉を汚染する原因となり、桑園と蚕室間でこれらのウイルスが循環して常習違作につながります。この他にも、核多角体病ウイルス(膿病の原因ウイルス)は、“多角体”と呼ばれるタンパク質の結晶中に包埋されているため、土壤中で長期間(1年以上)、病原性を保つことが知られています。膿病が発生した場合にも、残沙を桑園に入れないように十分ご注意ください。